



# 世間知らずかたり

成人向

おとなたちのおもちや

THE HYPERMAN

この日、杏子と八千代はとある病院を訪れていた。と言うのも、八千代から杏子へ婦人科検診に關する質問をしていたところを噂好きのコックに聞かれ、その重要性を熱く説かれたためだった。

正直なところ杏子も検診を受けたことがなかったため、病氣だ何だと怖がってしまった八千代を連れて行く形で自分も検診を受けに来たのだった。二人とも仕事ではあったが。

予約とかしてないんだが

良いか？

…検診は初めての方ですか？

ああ

私たち二人なんだが

…少々お待ちください

それでは  
お二人ともこちらへ

どうぞ

受付後、二人は揃って同じ診察室へと案内された。そもそも目立った病氣になつたことがない二人はその時点での違和感にも気付けなかった。

ドギドギ

診察室の中には何故か普通のベッド、そしてビデオカメラが設置されていた。二人はベッドには特に何も思わず、カメラに関しては何故そこにあるのか不思議がった。しかし、医者にそれは検査の記録用であると言われてあっさり納得してしまう。

あの…

このカメラは…？

検査には記録が必要なので

ご了承ください

ふーん

で

これからどうするんだ？

そしてここから、二人は検査と称した医者の罠に嵌っていくことになる。



検診は女性特有の疾患を調べるものなだけあって女性にとつては恥ずかしいと感じる人が多いらしい。ということとを医者が二人に説明した。それでも必要なことだから我慢して欲しいという。そして医者は綿棒を取り出し、杏子の股間に手を伸ばした。

膣内の分泌物を調べていきますからね

ちよつと失礼しますよ

あ…

キヨロコさ…

ドギドギドギ

うーん  
少し水気が少ないかな

普段からきちんとして水分取ってますか？

飲み物は普通に飲むが…

ドギドギ

それらしいことを言いながら、医者は綿棒で杏子の女性器の入口を撫で続ける。杏子是不慣れなために医者の指示に従っているだけだったが、そんな杏子を見て八千代はすっかりそういう物だと思ひ込んでしまう。お手本にするべき人間ではなかったが、今の八千代にとっては杏子が頼りだった。

カクカク

ドギドギ

医者が杏子の検査をしている間、八千代の方には看護師の男が現れた。  
恥ずかしがる八千代だったが、最初は誰でもそうであるということを知り文句のように言われ、男に身体を任せてしまう。

匂いを確認しますね

うう...

ん

ピクピク

汗の匂いと  
混じっていますが...

ふんふん

なるほど

逆に順調？に杏子の検査は続くが、いくら杏子の恥じらいが薄いからと言って決して不感症というわけではない。  
杏子の今までの人生の中で性欲よりも食欲が常に優先されてきたが故だった。  
こういった経験が皆無で、それが恥じらいを持つべきことであるという認識が薄いのだ。  
むしろ、他人の汚いところを触るなんて医者も大変だな...そんなことを考えていた。

ヒクヒク

ヒクヒク

膣内の触診と称して医者たちの指が二人の穴へ入り込み、そこで彼女たちが処女であることが発覚する。色気より食い気という言葉が体現している杏子と、彼女の世話焼きに勤しむ八千代ではそれも当然のことだった。

あー…膜がありますね

ま…膜…ですか？

お二人のような年頃の女性にはよく見られるんですが

この膜がありますと穴が狭まってしまい老廃物がここで詰まって女性特有の疾患にかかる可能性があるので

手術…とかするの？

近いですが痛くないようにがんばりますからね

医者は膣内の膜を慎重に撫でながらそれがいかにも人体に不都合がある物のように説明し、それを取り除くことを勧めた。まんまと言いくるめられた二人は、医者はその処理を任せてしまう。



医者は膜を処理するにあたって、膈内を入念にほぐす必要があると説明した。膜には元々いくつかの小さな隙間が開いているらしく、膈内をほぐすことで痛みのないようにその隙間を広げることが可能なのだと言う。そして膈内は非常にデリケートなために柔らかい物を使ってほぐしていくのが最適だと言って、舌をその穴へと押し入れていく。

そ…そこ舐めちゃ…

痛くならないようにしますからねー

は…はい

ほぐしやすくするお薬を入れていきますね

…ううっ

杏子と八千代はここで医者に媚薬を使用されてしまう。性的な快感自体が未体験の二人は、媚薬の効果に徐々に蝕まれていくことになる。



十分に時間をかけてほぐされた杏子と八千代の  
膣内はトロトロに濡れ、医者の処置により二人の  
膜は見事に出血も無く処理された。  
そして穴の矯正が必要だと説明し、矯正器具と称して  
それぞれの穴にはデイルドが挿入されてしまう。

広げた膜は放っておくと  
身体が怪我と勘違いして  
元に戻そうとしてしまうんです

なのでこの器具で矯正する  
必要があるんですよ

記録も必要なので  
そこを良く見えるように  
こちらに向けてください  
カメラに収まるように  
寄っていただけますか

な...なるほど...?

下着もずらして  
いただきます

膣内の慣れない異物感に戸惑いつつも、二人は  
素直に医者に従った。  
痛みは無く媚薬の影響でむしろ別の見知らぬ  
感覚が徐々にこみ上げ、それが二人を不安に  
させる。





次に医者はおもむろに杏子の胸をまさぐった。女性には乳房に腫瘍ができる可能性が男性より高いため、その検査をするのだと言う。それにならって看護師の男も八千代の胸を觸り始めた。

しこりのような物がありますね

痛みは…んむ…  
ないですか？

い…痛くは…つ

胸に違和感を覚えたことは  
ありませんか？

う…ん…  
あまり気にしたことが…

痛みとか  
ありますか？

痛みはないが…  
何か…変な感じが

クワッ  
クワッ

もっと詳しく検査する  
必要がありますね

二人の直腸から入り込んだ媚薬は徐々に彼女たちの全身に浸透し、そして検査と称した猥褻行為で彼女たちの開発は順調に進んでいた。

ムム  
ムム

ムム  
ムム

ムム  
ムム

ムム  
ムム

医者たちはより詳しい検査をしようと行って、彼女たちの股間に顔を近付ける。医者たちはあくまで杏子と八千代の体調を心配する素振りを見せつつ、存分に彼女たちの身体を文字通り味わっていく。

ここに痛みはありませんか？

だ…大丈夫…です

膈内で何か症状がある時はこちら側にも何かある可能性が高いんですけどね

白藤さんもここに痛みとか出てないですか？

検査と称してアナルをべちよべちよに舐め回され、未経験の彼女たちはアブノーマルな刺激を覚え込まされていく。



医者は次に尿検査を提案し、婦人科検診の尿検査は少し特殊であるという説明をした。人から騙されたことも無く、医者のような立場の人間が間違ったことを言うはずもないという先入観も相まって、二人は素直に医者の指示に従ってしまおう。

ひいっ

んんんっ!

止まらな...ひっ

んひっ!

な...なん...

カラダ...がっ

あっ...ぐうっ!

媚薬でより敏感になりトロトロに濡れた性器を舐められ、二人は絶頂に達しながら失禁してしまう。そして医者たちはそれをゴクゴクと飲み干し、さらに膀胱にあるものを全て飲み干すかの如くそこに吸い付いた。



医者は次に尿検査を提案し、婦人科検診の尿検査は少し特殊であるという説明をした。人から騙されたことも無く、医者のような立場の人間が間違ったことを言うはずもないという先入観も相まって、二人は素直に医者の指示に従ってしまふ。

んひっ！

んんんんっ！

うっ

ぐうぐうぐうぐう

媚薬でより敏感になりトロトロに濡れた性器を舐められ、二人は絶頂に達しながら失禁してしまう。そして医者たちはそれをゴクゴクと飲み干し、さらに膀胱にあるものを全て飲み干すかの如くそこに吸い付いた。



性知識もないままに生まれて初めての性的な絶頂を経験し、杏子と八千代は混乱していた。全身がビクビクと跳ね上がり、自分の尿の制御ができず、三人にとっては十分な異常事態だった。そして医者はそれをあたかも病気の症状の一端であるかのように説明し、二人の不安を煽る。

筋肉の痙攣が見られますね

あっ  
あっ

もしかしたら治療が必要になるかもしれませんが

まずはもう少し詳しい検査が必要です

んっ  
あっ

この状況で頼りになるのはもちろん目の前の医者しかおらず、二人は揃って一層暗い穴の中へ落ちて行くように感じていた。

あっ

ぐっ



性知識もないままに生まれて初めての性的な絶頂を経験し、杏子と八千代は混乱していた。全身がビクビクと跳ね上がり、自分の尿の制御ができず、三人にとっては十分な異常事態だった。そして医者はそれをあたかも病気の症状の一端であるかのように説明し、二人の不安を煽る。

あああつ

んあああつ

んぐつ  
ああああつ

この状況で頼りになるのはもちろん目の前の医者しかおらず、二人は揃って一層暗い穴の中へ落ちて行くようにしていた。



更に詳しい検査として、超音波(エコー)により  
身体の内부를診る方法があるという。  
医者はその説明をした後、検査に使うらしい  
道具を取り出した。  
実際はただのマッサージ機だったが、杏子と  
八千代はすっかり信じ込んでしまう。

あうっ

モニター見えますか？

ちよつと影のような  
ものが見えますね

あんまり動くと  
検査ができませんよー

我慢してくださいねー

何やらパソコンのモニターのようなものが  
二人の横に置かれ、超音波で検査している  
らしい映像が流れていた。  
もちろん偽物だが、無理矢理絶頂させられ  
続ける二人にそんなことは判断できない。

そんな...ことっ

ひっあああっ



更に詳しい検査として、超音波(エコー)により  
身体の内부를診る方法があるという。  
医者はその説明をした後、検査に使うらしい  
道具を取り出した。  
実際はただのマッサージ機だったが、杏子と  
八千代はすっかり信じ込んでしまう。

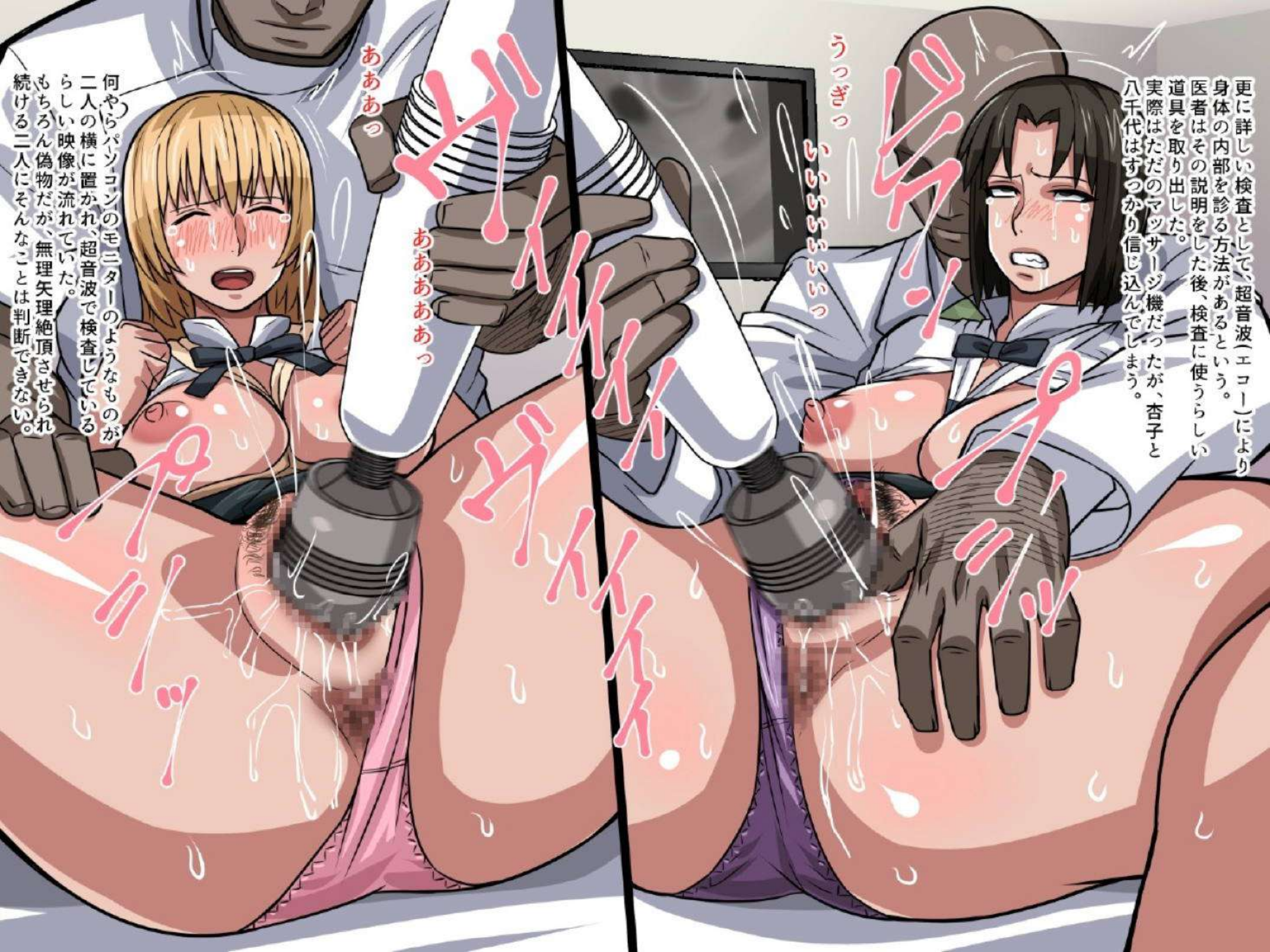
うっせー

うっせー

ああああっ

ああああっ

何やらパソコンのモニターのようなものが  
二人の横に置かれ、超音波で検査している  
らしい映像が流れていた。  
もちろん偽物だが、無理矢理絶頂させられ  
続ける二人にそんなことは判断できない。





医者たちはあくまで検査の一環であるという姿勢は崩さず、杏子と八千代の身体を弄んだ。もはや余計な小細工はいらないのではとすら思わせる無知ぶりにいむしろ医者側が驚くほどだった。

先ほどの検査で見つけた影らしき部分がこの辺ですかね

まだ筋肉の痙攣が時折ありますね

これならまだ簡単な治療で済みますよ

医者たちは彼女たちの身体を味わい、そして彼女たちに女性特有の疾患の初期状態であるとの説明をした。今ならメスなどで切開する必要がない方法で治療が可能であることも説明され、彼女たちは医者勢いに押されてそれを承諾してしまう。



医者たちはあくまで検査の一環であるという  
姿勢は崩さず、杏子と八千代の身体を弄んだ。  
もはや余計な小細工はいらないのではとすら  
思わせる無知ぶりにいむしる医者側が驚くほど  
だった。

医者たちは彼女たちの身体を味わい、そして  
彼女たちに女性特有の疾患の初期状態である  
との説明をした。  
今ならメスなどで切開する必要がない方法で  
治療が可能であることも説明され、彼女たちは  
医者勢いに押されてそれを承諾してしまう。



んおおおっ

んんんんんん

Multiple instances of pink sound effects (e.g., めいめい, ぐわん, ぐわん) are scattered across the scene, indicating the actions of the characters.

医者は治療と称し、様々な器具を杏子と八千代の身体に取り付ける。その全ての器具を彼女たちはもちろん見たことが無く、医療器具だと言われればそうとししか見えなかった。

はううう...

この矯正も中断して  
ましたね

う...動かしちゃ...

あうううう...

ここを頑張ればきつと  
楽になりますからね

う...ぐ...

すごくスムーズに  
入るようになって  
ますね

座薬のような物だと言って媚薬の塗られた  
パイプを挿入され、それもそういう物だと  
思い込んでしまう。  
彼女たちの開発は、彼女たちの協力のもとに  
着々と進んでいた。



医者は治療と称し、様々な器具を杏子と八千代の  
身体に取り付ける。その全ての器具を彼女たちはもちろん見たことが  
無く、医療器具だと言われればそうとししか見え  
無かった。

んんっ

んんんんんんっ

うんうんうんうんっ

座薬のような物だと言って媚薬の塗られた  
パイプを挿入され、それもそういう物だと  
思い込んでしまう。  
彼女たちの開発は、彼女たちの協力のもとに  
着々と進んでいた。



今まで経験したことがなかった性的な快感や  
絶頂というものを病氣と断定され、あらゆる  
治療と称する猥褻行為に対してされるがままの  
玩具と化していた。  
病氣や治療に関する説明は曖昧でお粗末な  
ものであったが、彼女たちは無知で、そして  
純粹過ぎた。

男女の粘膜同士が触れ合うことで  
ここから男性ホルモンが分泌  
されるんです

ドロツツとして  
初めてだと飲み辛い  
かもしれませんが

女性の方たちにとっては  
お薬と同じものですので  
きちんと飲んでくださいね

おい出る出る  
飲んでくださいねー

この治療には粘膜同士の接触が肝要らしく、  
医者たちは自分の男性器を彼女たちの口に  
含ませる。  
その中に当然のように精液を放出し、それすら  
薬であると偽り飲ませてしまう。



今まで経験したことがなかった性的な快感や  
絶頂というものを病氣と断定され、あらゆる  
治療と称する猥褻行為に対してされるがままの  
玩具と化していた。  
病氣や治療に関する説明は曖昧でお粗末な  
ものであったが、彼女たちは無知で、そして  
純粹過ぎた。

この治療には粘膜同士の接触が肝要らしく、  
医者たちは自分の男性器を彼女たちの口に  
含ませる。  
その中に当然のように精液を放出し、それすら  
薬であると偽り飲ませてしまう。



治療には人手が必要だと、いつの間にかやら  
看護師らしき白衣の男たちが数人そこに  
加わっていた。

この治療には体力  
使いますからねー

がんばりましょうねー

あんっ

あっ

あっ

あっあっあっ

おっ  
ほっ

おっ

ちよっ…  
まっ

おっ

あっあっ

あんっ

おっ

おっ

とても順調ですよー

んおっ

治療は順調に進み、ある意味では手遅れの  
状態にあった。  
仮に今までの検査や治療が偽物だったと  
気付けたとしても、体力を消耗した二人では  
もはや抵抗などできるはずもない。  
そもそも偽物だと気付くことすらできない。  
まま二人は男たちの性処理玩具と化していく。



治療には人手が必要だと、いつの間にかやら  
看護師らしき白衣の男たちが数人そこに  
加わっていた。

おっ

あっ  
あっ

治療は順調に進み、ある意味では手遅れの  
状態にあった。  
仮に今までの検査や治療が偽物だったと  
気付けたとしても、体力を消耗した二人では  
もはや抵抗などできるはずもない。  
そもそも偽物だと気付くことすらできない。  
まま二人は男たちの性処理玩具と化していく。





男たちはズボンを脱ぎ、下半身のモノを杏子と八千代の二人の目の前に突き出す。一人は顔の上に跨らせ、一人はそれを啜えさせた。

そろそろ出ますよー  
うっ……う

ん……んむ……

まだ残ってるので  
吸い出してくださいね

んんっ

んむう……

出ますよー  
飲んでくださいねー

んんっ

んっ……んぐ

んぶ……んんっ

いくら検診が初めてだからと言って、いくら性体験が無いからと言って、この異様な光景に疑問を持たないのだからうか。  
しかし二人を次々と襲う目まぐるしいほどの治療の数々を前にして、そんな余裕は持ち合わせていなかった。



男たちはズボンを脱ぎ、下半身のモノを杏子と八千代の二人の目の前に突き出す。一人は顔の上に跨らせ、一人はそれを啜えさせた。

いくら検診が初めてだからと言って、いくら性体験が無いからと言って、この異様な光景に疑問を持たないのだからうか。しかし二人を次々と襲う目まぐるしいほどの治療の数々を前にして、そんな余裕は持ち合わせていなかった。



んぶっ

んぶう

んおおお

んんん

医者は男性器から出る白濁した液体を薬だと言いつ張り、それを彼女たちの中に注入し続ける。何人もの男たちが二人に群がり、白濁液が穴から溢れ、それに比例するように二人は体力を消耗させた。

こうすればお薬が奥に届くんですよ

うっ

うっ

こうしないと奥に入って行かないので

よいしょっ

よいしょっ

あうっ

あんっ

んっ

んっ

うっ

うっ

この奥にもまた入口があつて

はっ

奥の入り口に当たつてるのわかりますか？

あっ

あ...あ...

ズンズン

ズンズン

ズンズン

あっ

ううううう

ズンズン

出ますよー

うっ

ううううう

その間にも医者は抜かりなく杏子と八千代に避妊薬を投与し、彼女たちの体内に射精を繰り返した。

医者は男性器から出る白濁した液体を薬だと言い張り、それを彼女たちの中に注入し続ける。  
何人もの男たちが二人に群がり、白濁液が穴から溢れ、それに比例するように二人は体力を消耗させた。

その間にも医者は抜かりなく杏子と八千代に避妊薬を投与し、彼女たちの体内に射精を繰り返した。



男たちが二人を弄ぶうち、限界が訪れた杏子と八千代は意識を失っていた。しかし二人の凌辱が止まることは無く、その様相はまさに性玩具と言ったところであった。

いつばい注入  
しますからねー

あーっ

あ

治療は順調ですよー

安心して下さいねー

うーっ

すでに聞こえていなくとも、医者はあくまで治療であるという姿勢は崩さなかった。





杏子と八千代が病院を訪れたこの日、二人は完全に監禁状態で一晩中弄ばれた。前後の穴をほじくられ、そしてそれを長時間ビデオに撮影されてしまう。後にそのビデオが裏で取引されることになるが、二人がそれを知ることには無かった。

おっほっ  
おっ

んおおっ

おおおっ

おおっ

おほおおおっ

んおっ

んおおっ

んほおおおっ

もう少しだから  
がんばりましょうねー

聞こえてませんよ

それもそうか  
ははは

二人は翌日に病室のベッドで目を覚ました。無知と純粹さ故か、一連の出来事を医療行為と信じたまま、そして卑猥に開発されてしまった身体と共に二人は平穩な日常へと帰っていくのだった。



杏子と八千代が病院を訪れたこの日、二人は完全に監禁状態で一晩中弄ばれた。前後の穴をほじくられ、そしてそれを長時間ビデオに撮影されてしまう。後にそのビデオが裏で取引されることになるが、二人がそれを知ることには無かった。

おっ

ほっ

おっおっおっ

んほおおおっ

おっ

んおおっ

おほおおおっ

二人は翌日に病室のベッドで目を覚ました。無知と純粹さ故か、一連の出来事を医療行為と信じたまま、そして卑猥に開発されてしまった身体と共に二人は平穩な日常へと帰って行くのだった。

